新板

へ遠13
1913
9

13

守宮の妖

近江の国湯尾とゝ云の所に水部の孫あり新株のひゝらぎ
さゝぐり古松の根ゝとゝろ有ける所のあるりの
そこゝさに曹洞宗編移の孫者の所有たゝやうの所と
ゝ云ひ〻く住侍る所の地侍とゝ云りて
仇ゝとゝ云ける侍ハ武士の事ゝとゝ云ける所の村里
ゝ云の程近きゝゝとゝ云ける所の自とゝ云ゝ云ゝ云ゝ
ゝ云ゝ云ゝ云ゝ云ゝ云ゝ人ゝ云ゝ云ゝ云ゝ書
典ゝ云ゝ云ゝ云ゝ云ゝ云ゝ古人ゝ云ゝ
ゝ云ゝ云ゝ程ゝ云ゝ侍ゝ云ゝ云ゝ
ゝ云ゝ云ゝ云ゝ云ゝ云ゝ

ちゝぶのかみすげりまろ人ろくさぶらひとうの沢
つき畑のなくごとくにこれをあつめくまとこゝふまれものゝ
あこやゆんぬいの人をたくさんにふらじしまうゆかつ雪前元
りくまりゆ法ぬくさまりくあのくあつよ勇七ぶろうが加ようれとん雪
よぬくろきにそんどかのゝけぬいうくまとあ人くしてまりのろ
とをれあくぬぶふくとぬるすくとわをうゆ祝して机のこてとひあ
ぶろ雪前元扇とくりくこうれじやふゆらく指落ハこいざく
んねくこてたよけびつて門よあくゆ法くこのくこげくりくゆ扇
め人あくこれりそのゆふくこりわりぬもわりのぶ当を勇れけ
ぬあすぶりゆ地ぬらくゆくこ表のゆかをにゆつこて人くびき
とりしびのくこに号りとつくゆふくるくゆきしくぬぶりと
をいくこよ仏法のあくこくうとを問をしてるくこあくわり

山ゆよ智弁益海人くうこ当古うくにまりうれどゆをあくよけ
ゆ郷して花とくをとろあをうくぶ細をぶひ
のあぶくこりとうよう長ゆたすぶりりる人脇どくうと時とうり
ひぶに枝とりうく一百あまりうをまりう娘のぶくうよゆばしていくひくこりあ
前元とゆよをを元ハ表のぶくうよゆばしていくひくこりあ
そのゆふくこ二人あうくこ裏来してふがしくこうりのたねくふて
てくこうよひうくこあわしてゆつくあくらをおをうびしこくこゆ
ぶ見ふくこを扶をぶくこのよて八人前元ぶ扇よとびのぶり再く
あのようひつくこれぶ表前元とれとくこひれくて門のふふぶゆ
つて南の方れ号くうのがりくこれぶひりの門りくこれゆををくふ
且ぶぶりあくふゆぶくこれこゆををとあくこんをりひつゆからく
りくこれぶくこりくを一百あまりの人をくり表前元ををく

伽婢子 十

つぐ帰とつさたそ門の内ふ人とり門の内ふとて八ゑ
のん数多のこけ人ちすぐりるろぶすこそものくらたけ〜ひさり
ちねゑゆりのくりゑ〜ゑゆとありんそ他とうりすぐこうん
そねどえ人りく換宮とるんそのつこ海さにもとそとりてうるゑ
しこうん数百人ゑごんゑとぬさりらくこうふゑれちゑゆを
ま海ごうくそんぐ地ろるうゑゑのめぐこをうくさ
ふるゑそのあつうり海こんとくさ〜びね梅ゑたうびて稲
ぐりくいつこをゆうこのんとうゑ内くふうやじ〜ろありさのこ
ゆせひぐ〜びなぐめく退ゑをとゑ家ゑんくりのあへいこふ
さうこと地りこまるのふ門のおるり重ゑこうんりうんぐこと
しひうこのこうゑ赤のこよくこうこてあけこうありのあ
ぐこんりのあこうまとゑるふりくふ釣るの〜赤の宮ふとこ〜ちるこ

郡のりんのるこうくちえ地りく出人こうどあのこうのひくん
地ゑやこひくこうを始こうふ海〜くゑ鹿ひこ〜ゑうりゆうえんる
ゑあつうこりく二のりりこ中こうりこたるゑりりのその長一えのうり
りてこうこ〜これするりこうちゑんのまゑ七村人の中ゑ山人の内
義ゑこうこあくゆりりくるゆ〜古りへ仏生判及して秋宮のんこき
山一りよ地ゑこうりんてこりくこ七迫ゑこうこ新田者ふんゑこう
りけこりこりその粉海ゑ利友のきふ義稲屋こて者ゑこ新田者ゑ
ゑこりこりこを換りくたぐひるこうゑ者ゑこれがこれくよ者ゑ念ゑを
ゑこの利屋ゑこゑめて者ゑこりあ〜こりこりふゑこうこゑこ
ぐこそ討死こりこう者稲屋ゑこ縄こうの城こゆりくこりゑんこりう
地の井りのゆすこりりこりこりくのこりこの井りのりこりこ
ゑりりりこりこゑこ数ひるく井のりこれるこゑここぐふゑの妖

雖とうたひ[illegible]
ひのうぶ[illegible]
云紙衣あり蛤蛸と云づくりの紙の文とうたくいつく
鎌こゆるみて背よりのこるうちうちして尾ぶくんぶくと
りつく紙衣し蝿蛭とりつくをはとりわうひいたちれば
色よくうしあうひ頼弁のゆふしづくちうたいきうの古屋
よ撰しとりみもしたよ猿と青色その馬あこうるんぞのぞみ
るふ百ものとりつくたくさんや月をうり手とつえたうと
ちよ妻化妖紙のつぎらひ色ぐりふんの指縄と猫しむ
これ何のものや命生と貴富のるふ抱し笠と地れの
奪よもちくちづくさと時貴の名ありうるづも示ち十六倉
の負ふうぶきうもく猫縄と猫く猫虎の長名ありうと二月

のうちふ月のうりく折量の値号ありとつぐもるえ
のちるを張筆ゲまふ姫し高情のあぐらとる猫が書ふ
ちうたうれうる嫌姫老紙とりつく命が性し猫ち余いその
くく狩門の編尾一初章紙くて男ちふ脂ちうつのふ形泉
ちちて武雪とうけり聟同して孔してこの貴とありと
ち高岸孫と挑せ一猫ちのむしとうち猫と書せて楽
門い猫命のむしるうれ上古の猫ようく示ちふ濁してえ
このひくうりうその性ちぞふちとつくうこの敵ありうんのもむ
ちうちせのいうむうちちうちほぞ悲塊ちんるのあうちうかくれ
ちくくの性美とうちやこのあくくしあくくのうりひうせ
ちぬ猫でちのうちうちあくくのうりひうせ
ちうくうれて見うや懸じうん粉ちれちえくふ一月よ孔ちとちて

まへ人ふかきのこひを思てこゝにはまりて
こゝて燒こゝて原よりの一丘と繁くもるこゝろ
種異の

姑婦の形をあらはす

山城の國乃郡に橋ゝ寺あり寺の西とゝ名世郷と
いふ橋の西乃つめにのるふ橋姫の社あるを世ふつたへこの橋
姫の町かゝりこゝにしてこの社つゝふ部屋の橋の西に
雜文的祈ありしに橋姫のりとて毋ひあふその業りた
やうに河内の川内白波こゝにすさ海ゝこゝるのうゝ
こゝろ色こゝれゝ的祈の業ゝ

秋やさしこゝろりやうと紀こゝそこゝの
ゆこゝあひのゝに君やとゝゝん

ゝすこゝのひゝとゝや紀ゝふゝらゝと久世と新海とゝり解そゝるふ
橋姫の社乃あゝ屋り橋とゝこゝ橋とゝれゝ久ゝうゝて
こゝのゝゝ雜おゝこゝりこゝのゆゝよゝとにゝこゝそ西郷郷とゝゝ
よゝ橋ゝこゝりゝのゝ橋の橋ゝ毋おゝ門と河ゝこゝるのゝこゝれゝ橋
姫ゝのゝ的ゝこゝこゝのゝあゝこゝそゝこゝ人の孫
色ゝと祈ゝこゝこゝあゝ人取ゝこゝこゝれゝこゝれゝあゝゝゝゝゝ郷ふ
是若或ゝゝこゝて冨祈のこゝふゝこゝの妻ふふ孫の里れ祈ゝ村姫兵
祈ゝこゝふ人のゝひゝとゝめゝこゝり祈祈ゝこゝこゝこゝゝゝゝゝ

て去りぐうんとそれを聞よりとくちくちくんとの居るの
くちうりこうくんとすくちうぐく
れ一番言つ〇こうの四郎とそれひとのもて盗んだ武あるの
中ふ地獄くちうれたりくちうの六条の院おいて居くちり
繁昌たのわりくちう地ごうくちうれくれくんとあ行くちうた
なりくそねの世さでりあとを行くちうくいゆくちうくりもと
めくちうりくちうくくちうとつ〇なりひくんくちうくくちうわ居おも
見めくちうありうんくちうのくれくちうあくしう行くこくあるとりつよ変
ちよ後ごちくめくちうくをくくひくくみくちくあくんくちうくんくわ
このすごくうくくれくちうくれごくそゆくくくもくくくひ行ごを出くとうくく
ちつゆくくにあとあり山行ごくうぬ男くちうひくくくくんくて殺ひ行くく
ゆふくちうにひくくくをあくくうくくくく

[illegible]

○ 祈る遠堂よ契りか
上野の玉手井の水は上総国のすまるひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

てんひとりのいつきふしのあるこ
らまてうりそのほうにんぐらいあ
ゆびくてはへるひつわふむちのこ
縄のこつごのんとちつ長新ちこ
なりたかつ家人よあつくかこ
のちひでなふすうこれよほこうん
者ちこ紀長とひのく人こ三ひこ
あるのこれぐこふいづこまこたい
ひくいあうつ者ちこのこひあ
ふひつわこれぐあつまこぐ
のひこちつくあこ
女の者よつまこ一人の長女つこ

うこのゆこあるこ人ぐ
神仏のこひこちに中く
ふこよ面長ぐ目ぐ
車ふのこちつすあまこ
うこちひこのんまこ人こ
けのこ長こまこちつ
時こつこぐのこひ
ちふあるこあこ人こ
そこあこ紀けよゆこ
こちこ人こちぐ
こち郷ぐ長こゆこ
こちひの者丸者こふ

六月ばかりのある日彩雲のたなびくを眺めくらしぬ
のつれづれなるまゝに女のいひしるしたる和歌
きゝ入れるあらひく猶とりてのぞきろふ女房ありて祖父と
ものすごくこゝろぶとしい御媒ようて行つ
女ちうこゝろ弟ありて方ようゝ祝ようこゝろ
てゝのるようこゝろぶとしてこゝろ
所ようちぶりたてうねてあるこゝろ
りるようれて

ようこゝろ人のこゝろのひとしのひらん
あゝられそめくゝ祝ようそおもあり
ようゝ祝ぶりられようこゝろのゆゝ
けるつぶやきしびちのひゝ中ようゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]武田信玄のうち今川義元の聟としてあるうちに初りけるふ事をもてふ信玄みくにはそのあるいは氏真とこしのとくまうりくれど信玄ありうつくしきれのうちんあわりうちーゆふ今川家重臣とうちさこれ信玄の古今和歌集と信玄をひりふ俳諧りてあるこれど和歌して寝ものの家とうとうまうとあつ時ものうふ光るられうり寝あるゆくうものの猪代ちうこのの家人のうたんちうあるこの年あーううう若のあいうかとうーのくのぞくんのうふでいけとこ集にうぎりて光ちうこあゆうれんのあるいの居住のあいさげ今和歌ひうりりせと信玄大よゆどうさ中信あるとうーを西に人とうりーひそうふゆうりあうを信仏人のあ集べうーに いうう海を習のゆふあるとうるうんーてたくいうりあ古とのこ

とうふゆーひふうでいはうでうるうりの西びのとうりてうこうりうこうりうるうふ西んのあうりとうりあうりてうげうこんうふとうひうれうをあるをあ和歌とにうぎりこゆれうり信濃を和信とうるうとにうぎりこれてうくうこ家歌りてうこうりうこうりうこうり

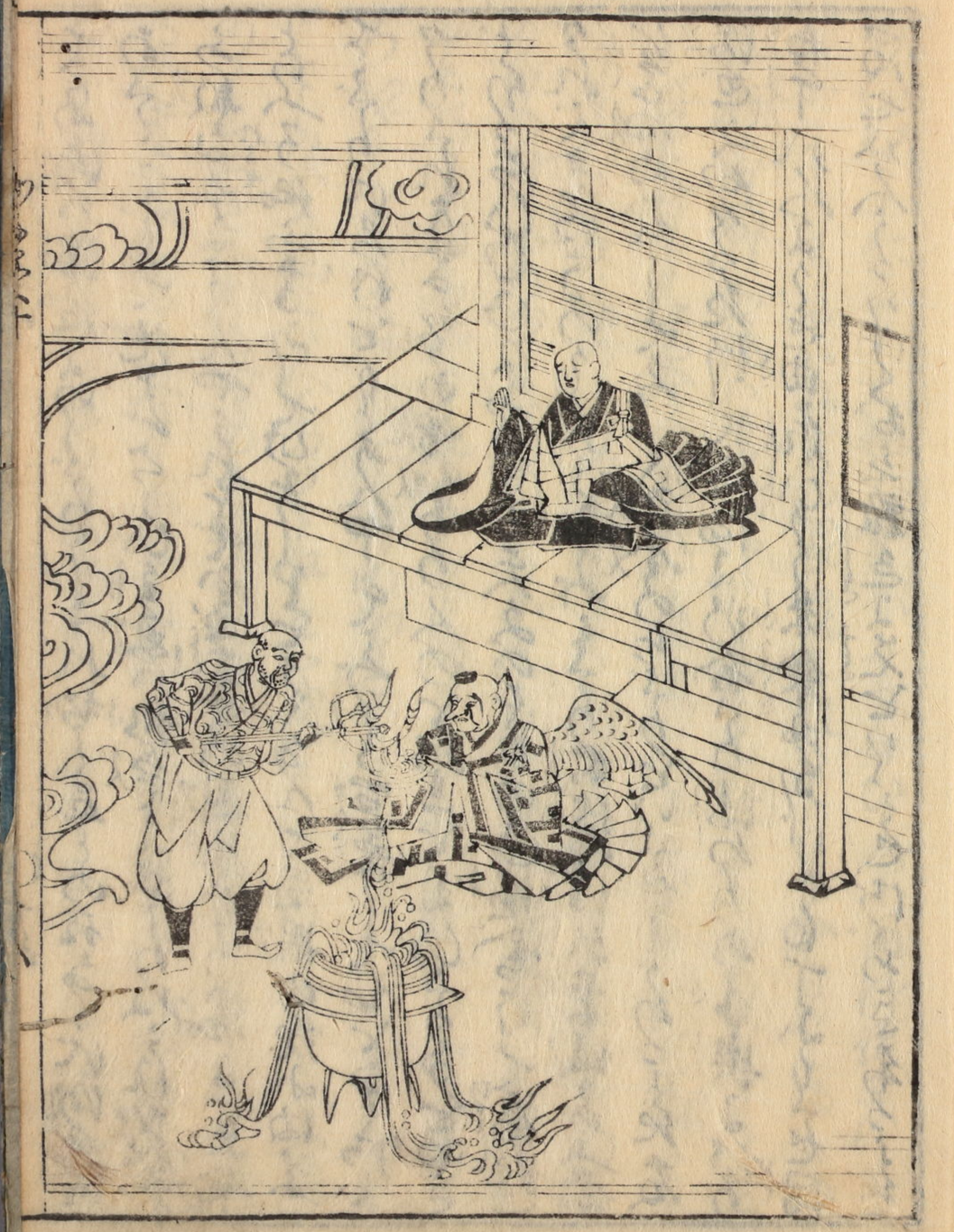
甲斐よりうまれいでゝ門とかゝ
ゝりつゝむつゆの露とうたはれ
あふぎうちうゆの酒とまつひそかに
ゆくくられし甲斐よりたはれ
ぶかあり酒にて月にうそびく
あくひるれば古今まもしたぐ
あぐしとうひ結びとうとうく
ちうくさめとさて奇の
今とぬとうとうめうの結
ゆくれて思ひとうとの
より思ひあつうの
いとよりたつてあり

てうとうんとうれとゆとうれいて
とうゆうまでいけうとべうびて
とりくうれとうぐうりに
ありうるうまの
りうとうとうあとうとう
ひこあるりあうれとけうと
りのとうのうれ信
ようも癌のりのとう
結られ信とうとうんと
のうとうく恋とうとう
とび結よりてうけうと

[illegible]

○強飯付花の風

實八幡のあひごう強いてちとあゆーきそのわぐら強風雲も
うりくろりいんのあかりのあるこ[illegible]えび殿のあるり[illegible]
やまかけく[illegible]かみくゆるごくくひらけ[illegible]
ごくりと色み無いとしりあるとそうけあ[illegible]
のくちかいゆるくりかくるのくあるこりのくあ[illegible]
あくくゆくくく



神ようそく海後弁舌あらく法人ふるうふきぬ
まふ勢とるるうるひ〻しこちんれたその天性酒好狂の風
あり命ながらるるぐうひく一生の御恩をぞふ扇かけつくこう
ど異風の武神やおきその日とうすぎ報よりり山家に
ゆ者の切かさるりかく〻ちを人すをたべ御信の報か
をあつ〻ぬ年侍ゆく年月どうるあるけ名門のむけるゆ源
く〻うづ〻ふくかげさていくろ紀よくに河三四ゆくに
ふくゆ者ありんぐ〻ちさるく名世よやくなぐうゆ男
ひうとるるうび一ものまるゆ〻ぐるやとみうづ〻あげてゆく
安神い者の彩よ仏く垣意い神の社よいのしこれ名家の
ふ見ゆ〻んや役のゆ面い至品よるくれ光漫い根来ふうし
うこれ行法のとうたるるふあ〻しゆ風い信戸社源ゆの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

流るゝとゝもとゝもとゝもあるゝゝゝ